校長室から ひがしなら通心

（R元年度）

茨木市立東奈良小学校　川上　隆　No．67
令和２年２月７日（金）発行

ある新聞記事より

朝日小学生新聞２／７

ネットでの誤解 多いです

SNS こんなことに気をつけよう

インターネットサービスの会社が去年発表した調査で、小学4～6年生の約4割がスマートフォンを持っていることがわかりました。学年が上がるにつれ、ツイッターなどSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用する人も増えています。みなさんも近いうちにSNSを使う日が来るかもしれません。どう関わっていけばよいか、考えてみましょう。

（森泉萌香）

いやな言葉、人それぞれ

ネットを使ったコミュニケーションツールは手軽で便利な半面、相手の顔が見えないためにトラブルが起きがちです。「言葉が足りず、誤解されてしまった」といった経験がある人もいるのではないでしょうか。

無料通信アプリを提供しているLINE社は、全国の小中学校や高校などで、ネット上でのコミュニケーションについて、正しく理解し、利用するための授業をしています。埼玉県川口市立柳崎小学校では1月、LINEのスタンプやメッセージの感じ方についてクラスで考える授業がありました。



LINE上のスタンプや文章の受け止め方が人によってちがうことを学びました＝1月22日、埼玉県川口市立柳崎小

予想外の返信には

子どもたちはまず、5枚のカード（左）の中で人に言われていやだと思う言葉を一つ選びました。結果は「人によってそれぞれ」。同社の講師・坂井陽介さんは「自分にとって良い言葉も相手にとってはいやな言葉になるのです」と語りました。

友だちとのやりとりで実際に起きやすいケースについても考えました。たとえば、自分が送ったスタンプに、相手が怒っているかのような予想外の返信がきたら――。子どもたちは「謝る」「電話で話す」などの対応を考え、「ネットではとくに相手を傷つけない伝え方を選びたい」などとふり返りました。

同社の広報、築野元志さんは「ネットでは伝えたいことがちがう意味で伝わる可能性がある。直接会って話すよりも誤解されやすいので、相手の気持ちをよく考えることが大切です」と話します。

デマを拡散しちゃだめ

ネット上では自由に発信できます。見つけた情報はうそやまちがいである可能性もあります。また、その情報はあっという間に広がります。自分が発信した情報が、「デマ」として世界中に広がるかもしれません。

今、新型コロナウイルスの感染者が世界中に広がっています。1月下旬、SNSで「武漢からの観光客が空港から逃げた」「東京五輪中止」というデマが出回り、当事者側が否定する騒ぎになりました。2016年の熊本地震では「動物園からライオンが放たれた」というデマが広がり、人々や社会を混乱させました。

子ども向けの情報モラル教室を開くKDDIスマホ・ケータイ安全教室の八木美冴さんは「デマを発信すれば警察や消防が問い合わせの対応に追われ、本当に困っている人を助けられなくなる可能性もあります。SNSを利用するときには情報を十分見きわめましょう」と話しています。

人から言われて いやな言葉はどれかな？



SNSの多くは利用者の年齢を制限しています。たとえばツイッターは13歳以上、LINEは12歳以上（一部端末のみ）です。

インターネットで情報を発信するときに気をつけること

1. 発信する前に一歩立ち止まり、本当に正しいか、必要なのかを考える
2. 不確か、あいまいな情報は絶対に発信しない
3. わからない場合や不安なときは、まわりの大人に相談する

KDDIスマホ・ケータイ安全教室から

ネット上に流れるデマ情報を否定する、関西エアポートのツイッター

関西エアポート/Kansai Airports
@kansai_airports

（ご注意）新型肺炎に関する一部SNSの誤情報について

新型コロナウイルス関連肺炎について、一部のSNSで「武漢からの発熱症状のある旅客が、関西国際空港の検疫検査を振り切って逃げた」といった情報が拡散されていますが、このような事実はございません（関西空港検疫所に確認）。

午後3:46 · 2020年1月24日 · Twitter Web App

「何でいくの？」 ～コミュニケーションの注意点～

みなさんは、「何でいくの？」と誰かに尋ねられたら、どのように答えますか？　よく考えてみると、この問いには二種類の答え方があります。

一つ目は、どこに行く「理由」を尋ねられている場合です。もう一つ、どのような「手段」で目的地に行こうとしているのかを尋ねられている場合もあるので、答えに迷ってしまいます。普通の会話なら、当然この問いの前後の脈絡があるので、誰にでも簡単に答えることができます。ところが、この問いをスマホで行うと、どうなるか想像してみてください。

たとえば、遊びに行く約束をしていて「交通手段は何にするの？」と尋ねるつもりで「何でいくの？」と書き送ったとします。しかし、相手には「どうしておまえが来るんだ？」という意味に受け取られてしまった場合には、誤解が生じてトラブルになる、というようなことが起こります。原因としては、発信側の語彙力の不足があり、さらに文字や絵だけのコミュニケーションというスマホの特徴があげられます。メールやラインなどの文字や絵によるコミュニケーションは、非常に誤解が生じやすいのです。スマホを使うとき、「相手がこの画面を見たらどう感じるかな？」ということを考えて発信することがとても大切です。